

Forty Years of Kadokawa Pictures

『犬神家の一族』『人間の証明』『セーラー服と機関銃』『時をかける少女』……日本映画を席卷した大旋風



展覧会

角川映画の

40

年

2016.7.26(火) - 10.30(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室(7階)

月曜日および9月5日(日)～9日(金)は休室です。

開室時間：午前11時～午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金：一般210円(100円) / 大学生・シニア70円(40円) / 高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

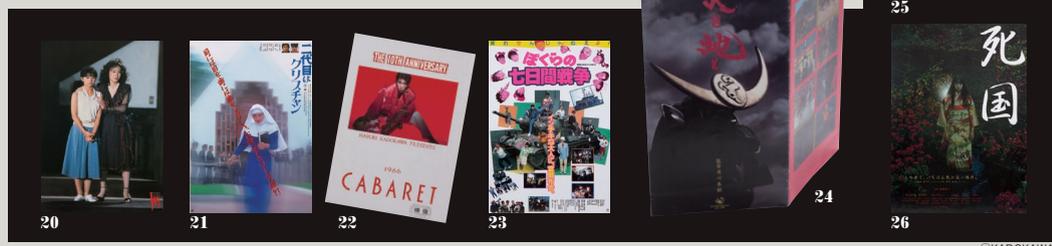
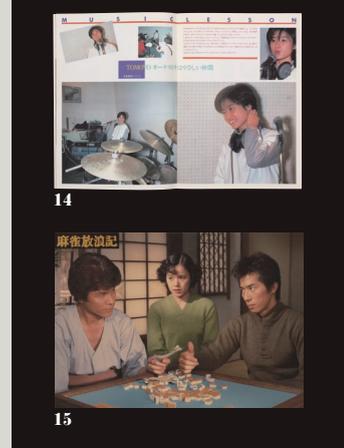
料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。()内は20名以上の団体料金です。

*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。

*フィルムセンターの上映企画をご覧になった方は当日限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター 協力：KADOKAWA

東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>



母さん、僕のあの帽子、 どうしたでしようね？

映画は、映画会社が作るもの——40年前、そんな常識に真っ向から挑み、瞬間に日本映画の勢力地図を塗り替えたのが《角川映画》でした。

出版社の角川書店を母体に創始された《角川映画》は、巨匠市川崑監督を迎えた『犬神家の一族』（1976年）で表舞台に登場、横溝正史の原作もベストセラーに押し上げました。その後もミステリーやハードボイルド小説を次々と映画化し、角川春樹社長のもと、映画と原作書、さらに主題歌も含めたメディアミックスの広報戦略によって、『人間の証明』（1977年）、『復活の日』（1980年）などヒット作を連打しました。1980年代に入ると『セーラー服と機関銃』（1981年）、『時

をかける少女』（1983年）などを発表して薬師丸ひろ子、原田知世、渡辺典子などのアイドル女優を輩出、さらにはアニメーション映画にも進出して若い世代を映画館に呼び寄せます。1990年代中期からは新たに角川歴彦社長のもとで再生、『失楽園』（1997年）や『リング』（1998年）など数々の話題作の中心となって、盛んな映画作りを今も続けています。

この展覧会「角川映画の40年」は、日本社会に国民的なセンセーションをもたらした《角川映画》の足跡を、当時の華やかなポスターや宣伝資料などを通じて振り返ります。思い出深い作品と再会を果たすとともに、現代の日本映画を再考するきっかけにいただければ幸いです。

映画小説

狼は生きる、 豚は死ぬ カイカ

歴史は俺たちになにを させようとしているのか 神が仕組んだ 壮大なドラマ

0.1秒のエクスタシー

『セーラー服と機関銃』

『白昼の死角』

『悪魔が来りて笛を吹く』

『人間の証明』

『戦国自衛隊』

『復活の日』

『汚れた英雄』

展覧会の構成

第1章 大旋風—角川映画の誕生

第2章 “角川三人娘”登場—アイドル映画の時代

第3章 アニメーションと超大作

第4章 再生、そして現代へ

『犬神家の一族』金田一耕助のトランク・帽子を特別展示！

写真

- 1 『犬神家の一族』（1976年、市川崑監督）ポスター
- 2 森村誠一『人間の証明』単行本（1976年）／角川文化振興財団所蔵
- 3 『人間の証明』（1977年、佐藤純彌監督）シナリオ
- 4 『野性の証明』（1978年、佐藤純彌監督）シナリオ
- 5 森村誠一『野性の証明』単行本（1977年）／角川文化振興財団所蔵
- 6 『金田一耕助の冒険』（1979年、大林宣彦監督）ポスター
- 7 『蘇える金狼』（1979年、村川透監督）ポスター
- 8 『野獣死すべし』（1980年、村川透監督）ポスター
- 9 『復活の日』（1980年、深作欣二監督）『復活の日通信』No.3（1979年）
- 10 『スローなプギにしてくれ』（1981年）藤田敏八監督使用撮影台本
- 11 『角川三人娘』薬師丸ひろ子・原田知世・渡辺典子ポスター（『セーラー服と機関銃 完結版』1982年、『天国にいちばん近い島』1984年、『晴れ、ときどき殺人』1984年）
- 12 角川書店の雑誌『パラエディ』
- 13 『魔界転生』（1981年、深作欣二監督）ポスター

- 14 原田知世全国ツアー「愛情物語プロローグ」（1984年）プログラム／KADOKAWA所蔵
- 15 『麻雀放浪記』（1984年、和田誠監督）ロビーカード／KADOKAWA所蔵
- 16 平井和正『幻魔大戦』文庫版（1979-1983年）／角川文化振興財団所蔵
- 17 『幻魔大戦』（1983年、りんたろう監督）ポスター
- 18 『少年ケニヤ』（1984年、大林宣彦監督）パンフレット
- 19 『カムイの剣』（1985年、りんたろう監督）パンフレット
- 20 『Wの悲劇』（1984年、澤村信一郎監督）ロビーカード／KADOKAWA所蔵
- 21 『二代目はクリスチャン』（1985年、井筒和幸監督）ポスター
- 22 『キャバレー』（1986年、角川春樹監督）シナリオ
- 23 『ぼくらの七日間戦争』（1988年、菅原比呂志監督）ポスター
- 24 『天と地と』（1990年、角川春樹監督）プレスシート
- 25 『リング』（1998年、中田秀夫監督）ポスター
- 26 『死国』（1999年、長崎俊一監督）ポスター

トークイベント

8月20日④ 野村正昭氏（映画評論家、元《角川映画》宣伝担当）
《角川映画》—宣伝の現場から

9月24日④ 中川右介氏（評論家・編集者、『角川映画1976-1986』著者）
《角川映画》はミステリー映画をどう変えたか

※詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

関連企画 角川映画祭

角川映画の主要作品（1976年～1988年）を一挙上映！
7月30日④～9月2日④
角川シネマ新宿（Tel. 03-5361-7878）
配給：KADOKAWA

崔洋一監督来訪！上映&トーク

《角川映画》で4本の作品を監督した崔洋一監督をお招きしてお話を伺います。

10月29日④ 14:00 『友よ、静かに眠れ』（1985年）上映（103分）
15:45 崔洋一監督トーク 「私の《角川映画》時代」

※上映をご覧になった方はそのままトークに参加できます（トークのみの参加もできます）。

会場：小ホール 定員：151名（各回入替制） 発券：地下1階受付
料金：一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／
障害者（付添者は原則1名まで）、キャンパスメンバーズは無料

※観覧券は当日・当該回のみ有効です。
※発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
※学生、シニア（65歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
※発券は各回1名につき1枚のみです。
※開映後の入場はできません。



〒104-0031
東京都中央区京橋3-7-6
お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600
東京国立近代美術館ホームページ
<http://www.momat.go.jp/>

N F C 東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

交通
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

長瀬映像文化財団
フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

